



世界の水道事情について



大阪市水道局 森岡 優也
(令和7年度抄録委員会委員)

日本では蛇口をひねれば安価で安全な水が出ますが、少し視野を広げてみると日本で当たり前のことでも世界では当たり前ではありません。今回は世界の水道事情について詳しく見ていきたいと思います。

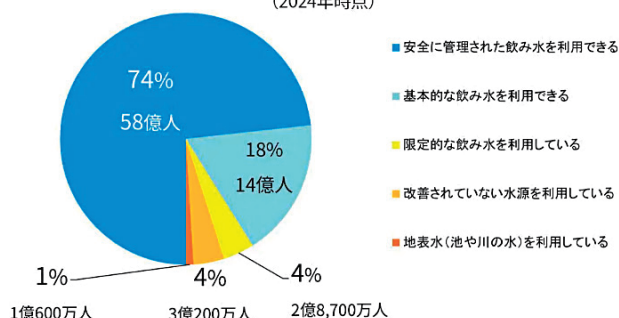
世界では安全に管理された水道水を飲める人は限られています。2022年時点で、**22億人（世界人口の約27%）**が安全に管理された飲み水を利用できていないと、ユニセフとWHOの共同報告書が示しています。この「安全に管理された飲み水」とは、「①自宅に設置されている」「②必要な時にいつでも利用できる」「③排泄物や化学物質によって汚染されていない」「④改善された水源から得られる飲み水」の条件を満たした水を指します。

しかし、これらの条件を満たす水は、特にアジアやアフリカの農村部では非常に限られており、多くの人が水道以外の手段に依存しています。さらに、1億1,500万人は湖や河川、用水路などの未処理の地表水を直接使用しており、健康リスクが高い状況です。

このような状況から、SDGs（持続可能な開発目標）では、2030年までに「**世界が達成すべき目標の一つとして、すべての人が安全で安価な飲み水を入手できること**」が掲げられています。

世界の人々の、飲み水へのアクセス状況

(2024年時点)



	外部汚染から保護される構造	自宅にある	必要な時にいつでも入手できる	水質の安全性の確認	自宅に水を持つのにかかる時間
安全に管理された飲み水	○	○	○	○	—
基本的な飲み水	○	いずれかひとつでも×			往復30分以内(待ち時間含め)
限定的な飲み水	○	いずれかひとつでも×			往復30分を超える(待ち時間含め)
改善されていない水源、地表水	×	—	—	—	—

図-1

出典：ユニセフ Web ページ（安全な水）

また、アジア13か国（インド・インドネシア・カンボジア・スリランカ・タイ・ネパール・パキスタン・バングラデシュ・東ティモール・フィリピン・ベトナム・ミャンマー・ラオス）の主要都市の「水道普及率」、「無収水率」、「水使用量」、「水道料金」を見てみると、近隣の国でも水道の整備が十分にされていない都市がまだまだ多くあります。

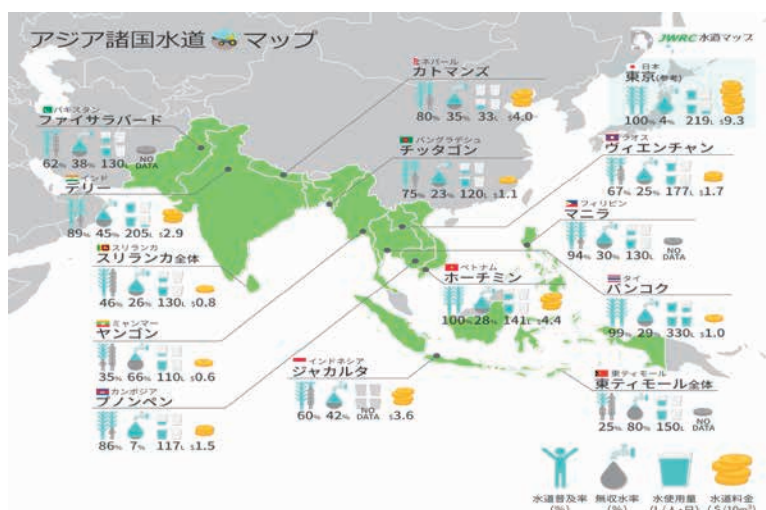


図-2

出典：公益財団法人水道技術研究センターWeb ページ（アジア諸国水道マップ）